

研究主題

未来社会を切り拓く児童生徒の育成を目指したカリキュラム・マネジメント

～「わかる」「できる」「楽しい」があふれる学校へ（2か年計画）～

※未来社会を切り拓くとは、予測困難な時代の中でも自分の良さや強みを活かしながら様々な課題に挑戦すること

はじめに

本校は、令和3年4月に開校し、5年目を迎えた。学校の教育目標は「地域社会で心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる」である。本年度の重点教育目標は「小・中学部が連携した系統性・一貫性のある教育課程の編成と実施」とし、地域と共に学び、地域と共に育つ人材の育成を目指している。

子供たちを取り巻く環境として、教育振興基本計画（2023）では、新型コロナウイルス感染症の拡大や国際社会の不安定化など、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代とし、現代は予測が困難な社会であると言われている。そのような時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくことができるような子供たちの姿が求められている。

研究に取り組む背景

学校経営方針

「小・中学部が連携した系統性・一貫性のある
教育課程の編成と実施」

- 生きる力・確かな学力を育む授業の継続
→「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 現在までの成果と課題を踏まえた教育課程の改善と教育活動の実施
→R-V-P-D-C-Aサイクルの確立
- 自立活動に関する共通理解と指導の充実
- 卒業後の進路を見据えた系統性のあるキャリア教育

前年度の研究の成果

- 積極的なICT等の活用
- 「個別最適な学び」「協働的な学び」「自立活動の視点」を踏まえた授業づくり
→学習場面において、ICTを活用しながら児童生徒が主体的に学ぶことで、生きる力を育むことができた。

前年度の研究の課題

- ICT等を活用した指導力のさらなる向上
- 本校が目指す情報活用能力一覧の作成
- 児童生徒の観点別学習状況の評価の充実

研究の目的

- 小・中学部、9年間を見通した系統的、発展的な教育課程（年間指導計画）の整理と実施を図る。
- 自立活動に関する教職員間の共通理解と指導の充実を図る。
- 本校が目指す情報活用能力一覧を整理、活用しながらICT等を活用した指導力のさらなる向上を図る。

研究の内容・方法

カリキュラムの充実

- ・各教科関連チェックシートを使って学習指導要領の視点から生活単元学習の年間指導計画を見直し、整理する。
- ・教科等研修会や単元の配列表を活用しながら、モデルとなる生活単元学習の年間指導計画を作成する。

指導の改善（自立活動の視点）

- ・各学年で選出した児童生徒の自立活動の流れ図を作成し、指導の目標や内容、指導場面を明確にする。
- ・自立活動の流れ図をもとに各学年で研究授業を行う。
- ・各学年で行った研究授業の成果や課題について交流する。

指導の充実（ICT指導力向上の視点）

- ・情報教育委員会と連携し、本校が目指す情報活用能力一覧を系統的・発展的な視点で整理し、活用できるようにする。
- ・ICT支援員を活用した研修会を実施する。

期待される成果

- ✓ 生活単元学習のモデルとなる年間指導計画を作成、活用することで系統的・発展的な指導につながる。
- ✓ 教員間で自立活動について共通理解が図られ、自立活動の指導の目標、内容、場面が明確になり、指導の改善につながる。
- ✓ 本校が目指す情報活用能力の一覧について整理、活用することで、ICT等の指導力の向上につながる。